

平成 22 年度の決算ハイライト

J A たじまの単体決算の概要について

平成 22 年度の主な取り組みとその結果について

■ 事業環境について

昨年度は、わが国の農業にとって大きな課題を抱えることとなった一年でありました。米価の下落が進む中、農業政策においては、『農政の大転換』として米戸別所得補償モデル事業と水田利活用自給力向上事業が実施され、新しい農業政策が導入されました。

また、10 月には TPP（環太平洋パートナーシップ協定）への参加問題の浮上など、いずれも今後の日本農業のあり方に関わる重要な問題が提起されました。

経済面では、年度の前半は世界経済も緩やかな回復基調を辿る中、わが国の経済も同調した動きとなりました。しかし、後半は欧米経済の不透明感や新興国の成長の鈍化などの影響もあり、わが国の経済も足踏み状態となりました。以後については政策対応による耐久消費財を中心とした駆け込み需要の増加など、一時的に消費は盛り上がりましたが、平成 23 年 3 月の大震災による影響のため、日本経済の見通しは大変不透明となりました。

但馬内では、記録的な猛暑に見舞われ、22 年産米における一等米比率が著しく低下し、水稻栽培を中心とする地帯として、農業面において大きな影響を受ける事となりました。経済面においては、依然として人口減少に歯止めがかからないことなどから、地域経済の縮小傾向が強まり、前年度に引き続き厳しい一年となりました。

■ 事業の経過および成果

J A たじまでは、20 年度の総代会で中期計画「Plan 2010」を決議し、『たじまに生きる たじまを活かす』のスローガンのもと、重点的に取り組む課題として『持続可能な農業へ』『J A の活動を通してきずなを強め仲間の輪を広げる』『暮らしの変化・多様化に対応した事業展開』『経営基盤の強化をはかる』の 4 点を設定しました。

また、22 年度は「Plan2010」の最終年度として、計画の着実な実行に向け、次のような基本方針を設定して事業の運営にあたりました。

- 振興方針に基づく生産・販売戦略により、農業所得の増大につとめます
- 組合員の参加・参画により、地域に根ざした J A 活動を展開します。
- 専門性の高い職員の育成に取り組み、組合員の身近な相談に応えます。
- 総合力を発揮するため、J A の健全経営の確立につとめます。

（基本方針に基づく主な活動については次ページをご覧ください）

これらの取り組みを行いました結果、平成 22 年度の事業総利益は 6,545 百万円となり、前年より 130 百万円の増加となりました。また、事業管理費の削減などにも取り組んだ結果、当期未処分剰余金については 771 百万円となり、こちらも前年より増加する結果となりました。

基本方針に基づく具体的な活動

振興方針に基づく生産・販売戦略により、農業所得の増大につとめました

「ふるさと^{たじま}米」や「みかた棚田米」については生産初年度となることから、積極的な販路拡大に取り組むとともに、既存のお米についても、多様な販売経路での販売につとめました。また、「コウノトリ育むお米」については沖縄県での販売が開始するなど積極的な販路拡大を行いました。また、「朝倉さんしょ」など地域の特徴を活かした特産物について行政と連携するなど、ブランド化につとめました。



組合員の参加・参画により、地域に根ざしたJA活動を展開しました

支店運営委員や農協委員に参画いただきながら計画・実施した「地域ふれあい活動」については、独自開催のイベントだけではなく、地域行事への参加や地域の清掃活動の実施など、積極的に地域と交流する取り組みを進めました。また、2年目を迎えた「あぐりキッズスクール」は3会場で開催。温泉会場については、竹田地区からの力強い支援・協力を受け、より地域と密着した形での開催を実現することができました。



専門性の高い職員の育成に取り組み、組合員の身近な相談の対応につとめました

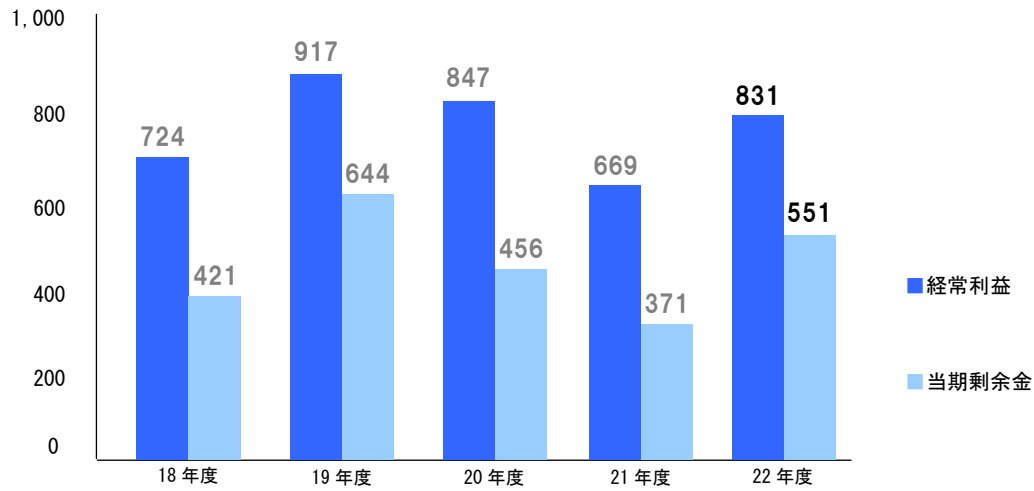
金融・共済商品について、一層のコンプライアンス（法令順守）が重視される中、知識向上のための資格取得を推進するなど、職員の専門性向上につとめました。特に平成 23 年度から建物更生共済の支払条件が拡大されることを見据え、有事における対応・相談に迅速にお答えできるよう、LA（共済専門外務員）だけでなく、渉外・融資渉外担当者にも必要資格の取得を義務づけました。まず初年度として渉外・融資渉外担当者の約半数が資格取得し、組合員からの相談に多くの職員が対応することが可能となりました。

総合力を発揮するため、JAの健全経営の確立につとめました

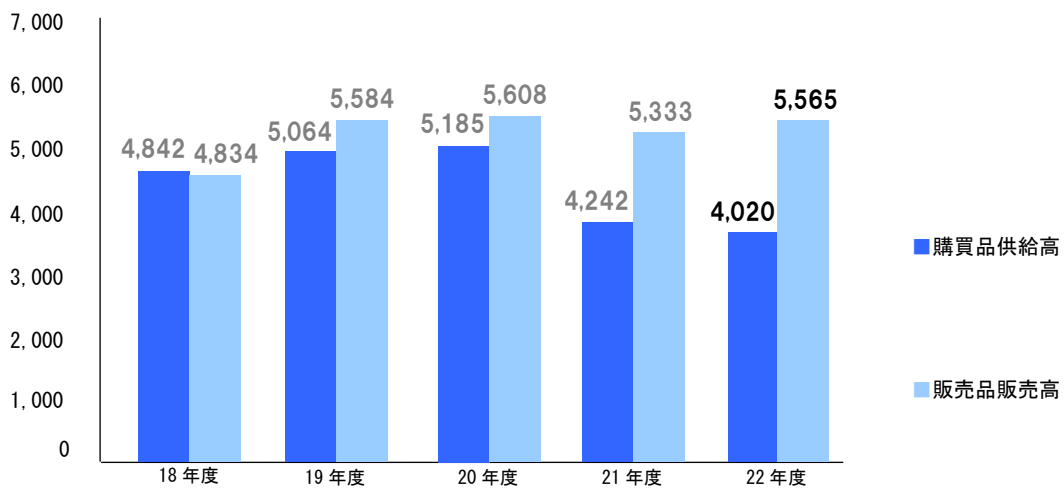
事業環境が厳しくなることが見込まれる中、総合事業体としての機能発揮により、組合員・利用者の満足度の向上をはかるため、事業管理費の削減などを行い、健全経営の確立につとめました。また、施設の効率的利用や不稼働資産の処分を進めるため、新中期3ヵ年計画「Plan 2013」内に、施設整備について盛り込み、3ヵ年での計画的な実施に向けた準備を行いました。

■業績について

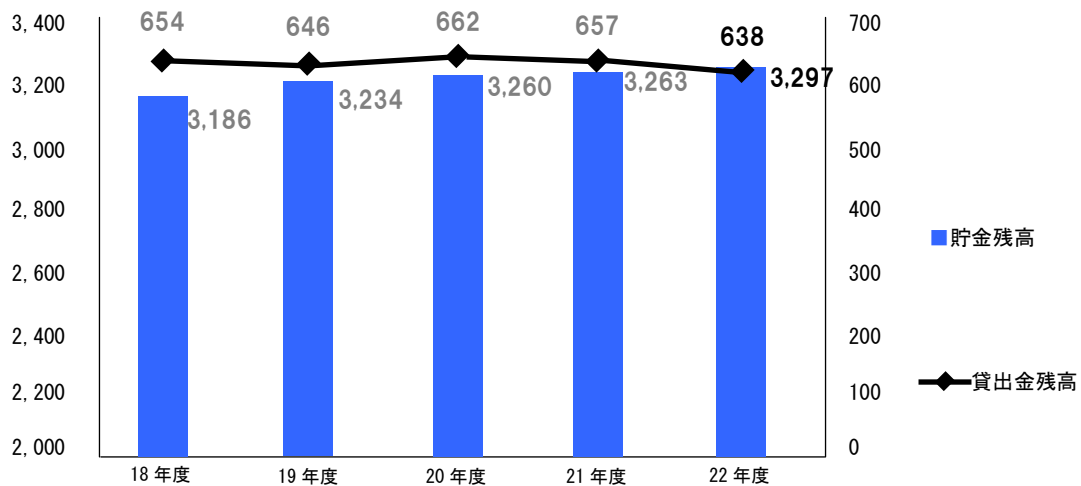
経常利益・当期剰余金の推移（単位：百万円）



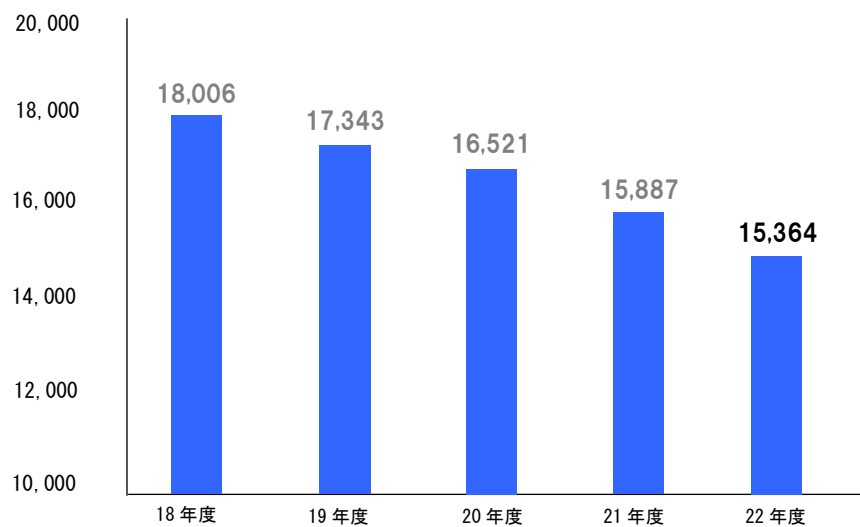
販売品・購買品供給高の推移（単位：百万円）



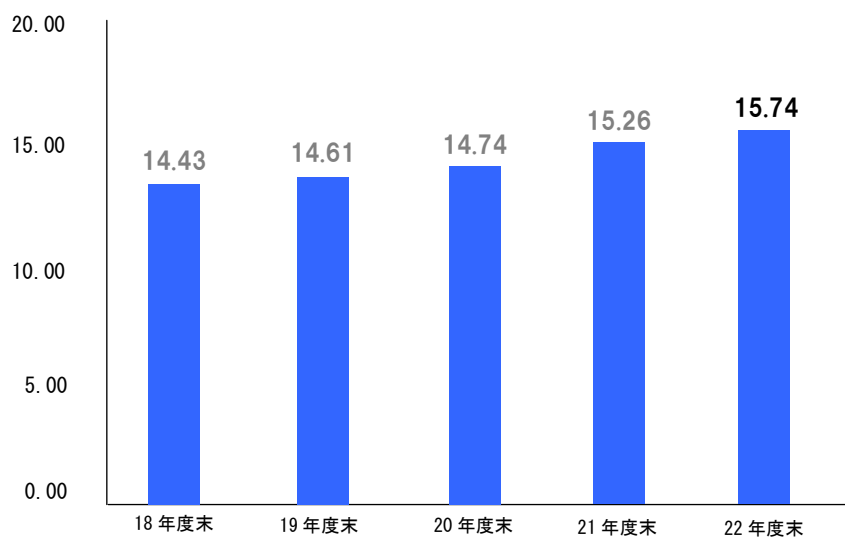
貯金・貸出金残高の推移（単位：億円）



長期共済保有高の推移（単位：億円）



自己資本比率の推移（単位：％）



※自己資本比率の算出基準は、農林水産省の告示に基づき、平成18年度より新基準（新BIS規制）により算出しています。

平成 22 年度トピックス



コウノトリ育むお米の取り組みが評価！環境大臣賞を受賞！

2010年11月5日、JAたじまは、「コウノトリ育むお米」への取り組みが評価され、国や民間団体で構成する「グリーン購入ネットワーク」が主催する、「第12回グリーン購入大賞」で環境大臣賞を受賞しました。

評価のポイントとなったのは、生物多様性の保全に対する継続性や、自治体や生産者・販売者が一体となって取り組み、実績をあげていることも高く評価されました。

グリーン購入大賞とは

環境負荷が少ない商品を購入する「グリーン購入」に関する先進事例を表彰することで、グリーン購入のさらなる普及・拡大を図ることを目的としています。



ふるさと^{たじま}米・みかた棚田米生産・販売開始！

平成22年度より、新たに「ふるさと^{たじま}米」「みかた棚田米」の生産・販売を開始しました。

ふるさと^{たじま}米は減農薬・減肥料の特別栽培米となっており、生産者、JAたじま、流通が一体となり生産・販売を進めます。



温泉支店 移転・新築オープン

平成23年3月28日、温泉支店を移転・新築オープンしました。